

2022. 3. 6 (日) マタイ28:18~20

**28:18** イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

**28:19** ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

**28:20** わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

<説教>

十字架で死なれ、三日目に死人の中からよみがえられたイエスに、十一人の弟子たちはガリラヤの山でお会いし、礼拝したのですが、それでもなお疑う者たちも中にはいました。

そんな彼らに対してイエスはあわれみ深く更に近づいて来られ、「わたしには天においても地においても、全ての権威が与えられています。」と、まさしく権威をもって宣言なさいました。

イエスに父なる神から天と地における全ての権威が与えられており、この地上の人間的な最高権威者、最強権力者もこのイエスの下にあり、並ぶこともできません（並べてもならず、並ぼうとしてもならない）。

もちろん、私たちもイエスだけを「主」と信じ、告白し、その権威の下にへりくだり、従うのです。

それで、〈ですから〉と主イエスは言われます。

〈あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい〉と。

イエスを礼拝しつつ中には疑う者もいるような、まったく罪深い、不完全な弟子たちでしたが、それでもそんな〈あなたがた〉が行きなさいとイエスは言われました。

「このわたしがあなたがたをあらゆる国の人々のところに遣わす。だからわたしに従って行きなさい」ということです。

こんなにも罪深く、疑いもするような私たちをあわれみ、ご自分の弟子として遣わしてくださいと感謝して喜んで行きなさい、ということでしょう。

〈あらゆる国の人々を〉、つまりもはやユダヤ人だけでなく、異邦人も含めた「すべての民族を」と言われるのです。

〈天においても地においても〉イエスが〈全ての権威〉を持っておられるのですから、〈地〉にいる〈あらゆる国の人々〉にそのことを、「イエスだけが主である。ほかにはいない。」と告げ知らせるのです。

そして「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」（使徒 4:12）と告げ知らせるのです。

〈弟子〉とはその言葉の意味のとおり「師に従って教えられる人」のことですから、ここで言われた〈弟子〉とはもちろん、「あなたがたの師はただ一人、キリストだけです。」（23:10）とお教えになったイエスの弟子のことです（人間の弟子ではありません）。

イエスの〈弟子〉とは、イエスにつき従って、イエスの教えを受け、学ぶ人、そして更

にますますイエスに忠実に従う人です。

ですから〈弟子としなさい〉とは「教えなさい。学ばせなさい」ということなのです。

ここでイエスから直接命じられ、世に遣わされる十一人の弟子たちの側からすれば、自分たちがイエスから学んだイエスの教えを、十字架で殺されたが三日目によみがえられたイエスを〈あらゆる国の人々〉に宣べ伝え、告げ知らせ、教えることです。

そうやってこの地上にイエスの弟子を捜し出し、見つけ出すのです。

急いで行って弟子たちにイエスがよみがえられたことを知らせるように御使いから命じられた女性たちが伝えたことを信じなかった十一人の弟子たちに対して、今度は自分たちが〈行って〉十字架の死とよみがえりのイエスのことを〈あらゆる国の人々〉に告げ知らせよ、というのですから、なんともまあ大胆なことか、と思います。

でも逆に考えれば、そんな弟子たちであればこそ、もし自分たちが宣べ伝え、告げ知らせ、教えた相手が疑い深く、信じなかったとしても、残念で悲しくはあるけれど「ああ、自分もそうだったなあ」と寛容になれるし、あらぬ怒りや憎しみを抱かなくて済むかもしれません。

それはイエスのよみがえりに関してだけとは限りません。

自分たちがイエスから弟子として召された始めからこれまでの3年ほどの間のことを思い起こして自らを省みれば、イエスのすぐそばにずっと置いていただき、直接イエスの教えを聞き、みわざを見、不思議な奇蹟も何度も経験させていただいたにもかかわらず、信仰薄く、すぐ疑い恐れ、理解するに鈍く、悟るに遅い、心頑なな者であったか認めざるを得なかったでしょう。

そしていざとなったら自分の命惜しさにイエスを見捨てて、てんでんばらばら逃げてしまいました。

しかし、そんな惨めな弟子たちをイエスはお見捨てにならず、あわれみ、再びみもとに集めてくださり、ご自分の最高の権威をもって〈あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。〉とご自分の御用のために召してくださいました。

〈行って〉は「行きなさい」という命令形ではありますが、そこには「恐れることはない。天と地の全ての権威を与えられたこのわたしが、あなたがたを再び召してあらゆる国の人々のところに遣わすのだから。」という励ましがあるのです。

彼らが〈あらゆる国の人々〉に告げ知らせ、学ばせるべきことは、「イエス・キリストは主です」(ピリピ 2:11)ということ、天と地を支配なさるイエスの〈権威〉です。

そしてその遣わされた地での働きがむなしくならないようにもイエスはその〈権威〉を発揮してくださるみこころであり、約束なのです。

だから〈ですから〉とイエスは言われるのです。

この世の権威者たちはいざとなったら、あるいは始めから「俺の言うことに逆らったらどうなるか、わかっているな」と権力を笠に着て脅し、暴力の不安と恐怖で支配しようとはしますが、イエスは全く違います。

十字架の死にまで父なる神にお従いになった全き従順と、私たちの罪のために死なれた愛によって〈あらゆる国の人々〉を支配なさるのです。

〈わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。〉(11:29)とイエスは言

われました。

このイエスから〈学び〉、〈たましいに安らぎを得〉て〈あらゆる国の人々〉のところに行くようにイエスは弟子たちに言われたのです。

弟子たちは天と地において全ての権威が与えられているイエスだけに信頼し、イエスと同じように、イエスから学んだとおりに、「あなたがたもイエスから学ぶイエスの弟子となりなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。」と人々に呼びかけるのです。

同じく私たちもそのようなイエスの弟子としてイエスから学びつつ、地上の〈あらゆる国の人々〉へと遣わされて行くのです。